

【p 28～p 33】 逆境からのプレーボール ―村山実―

1 資料活用にあたって

- 長文のため事前に読ませておく。
- 野球のルールがわかりにくい場合は、事前に体育のベースボール型ボール運動の学習と関連させる方法もある。
- 授業では、話の流れを二つの場面に分けて取り上げる。
 - ① 試合場と玄関までの場面
 - ・ 自分の失策を人のせいにして自分を見失っている状態の一郎
 - ② 父から聞く村山さんの話の場面
 - ・ 失策をバネにして阪神のエースになった村山さん
 - ・ 負けず嫌いだけれど、自分を冷静に見る目がある村山さん
 - ・ 天才的プレーヤーの長島に脱帽できる謙虚さを持つ村山さん

2 資料の読み方のポイント

- 変化するのは：一郎（子どもが「一郎」になって考えられるように発問を工夫する。）
- 変化するきっかけ（助言）は：父から聞く村山さんの話
- 変化するところは：「ぼくは、今日の自分自身を思い返して、下を向いた」
- 本資料では、二種類の「負けずぎらい」が対比的に描かれている。一郎の「人のせいになっているだけの負けずぎらい」と村山さんの「悔しさをバネにしている負けずぎらい」である。
- 負けず嫌いだった村山さんだが、謙虚さがあったから「最大の失敗は、最大の幸運へのプレーボールである」と言えた。

3 読み物資料の素材について

【参考文献等】

- ・ 「炎のエース ザトペック投法の栄光」村山実、ベースボール・マガジン社、1993年

【訪れたい場所】

- ・ 阪神甲子園球場 〒663-8152 西宮市甲子園町1-82 Tel 0798-47-1041
- ・ 甲子園歴史館 〒663-8152 西宮市甲子園町8-15 Tel 0798-49-4509

○ 天覧試合（1959年6月25日）

- ・ 天覧試合は、国民の注目イベントだった。昭和天皇、皇后が後楽園球場のバックネット裏貴賓席に来場された。日本テレビとNHKの二つの局がテレビ生中継をおこなうなど、まさに、オリンピックなみの注目度であった。
- ・ 村山実は、長嶋茂雄に打たれたサヨナラホームランを「あれは、ファールだった。」と言い続けていたという。長嶋に対するライバル意識は、この日をさかいにさらに強くなり、1500奪三振、2000奪三振を、「長嶋からとる」と宣言し、みごとに達成している。

○ 阪神・淡路大震災でのボランティア

- ・ 阪神・淡路大震災で被災した芦屋市のすべての小学校に、村山実は、救援物資として、サッカーボールのプレゼントをおこなった。震災直後のすばやい対応は、芦屋市の多くの子どもたちを喜ばせた。

○ 後輩を見守った銅像

- ・ 住友工業高等学校（現尼崎市立尼崎双星高等学校：平成23年4月に尼崎市立尼崎東高等学校と尼崎市立尼崎産業高等学校を発展的に統合）出身で、尼崎双星高等学校の前身である尼崎産業高等学校の校門には、村山実のピッチング姿の銅像があり多くの後輩を見守ってきた。

4 展開の具体例

- ・主 題 名 ・自分のよさをのばそう A (4)
- ・資料の概要 ・自分だけで野球をやっているつもりの一郎は、試合に負けたことをチームメイトの責任と決めつけ苛立つ。帰宅後、ふてくされていた一郎は、父親から村山実の天覧試合の逸話を聞くことによって、今日の自分自身を思い返し、自分のいたらなかった点に気づくとともに、前向きにがんばろうという気持ちになる。
- ・ね ら い ・失敗にくさらず前へ進んでいった村山さんの話を父から聞いて道徳的に変化する一郎を通して、自分の特徴を知って、悪いところを改めよいところを伸ばそうとする道徳的心情を育てる。

・展開の具体例

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	
導 入	・今日の資料に興味を持つ	試合に負けてくやしい思いをしたことがありますか。	
展 開	・資料の範読を開きながら、黙読する。	顔を上げずに無言でマウンドの土をならしながら、一郎はどんなことを考えていたのでしょうか。	すべてをチームメイトのせいにして いる主人公は、自分をみつめる意識が低いことをおさえる。
	・顔を上げずに無言でマウンドの土をならす主人公の気持ちを考える。	・お前らがエラーしたからピンチを招いたんじゃないか。 ・エラーしたお前が言うなよ。	ふてくされている主人公は、自分をみつめる意識が低いことを再度おさえる。
	・家に帰ってきて、玄関で寝そべった時の主人公の気持ちを考える。	父さんに返事もせず、くつを脱いでいる途中で玄関に寝そべった一郎は、どんなことを考えていたのでしょうか。	逆境時の村山さんについての父の話がきっかけとなり、自分をみつめて悪い所を改めると意識が主人公に起こっていることをおさえる。
	・今日の自分自身を思い返して下を向いたときの一郎の気持ちを考える。	・すごくくやしい。 ・克治さえ、エラーしなければ勝てたのに。 ・監督もみんなも自分のことをわかってくれない。	
終 末	・顔を上げて父さんの顔を見たときの一郎の気持ちを考える。	今日の自分自身を思い返して、下を向いたとき、一郎はどんなことを思っていたのでしょうか。 ・自分は人のせいばかりにしていた。 ・一つのエラーで動揺するなんて、自分はまだまだだな。 ・これまで、一人で野球をやっている気持ちになっていたな。	
		顔を上げて父さんを見ながら、一郎はどんなことを考えたのでしょうか。	「失敗にくさらず前へ進んでいった村山さんはえらいな。」という父の言葉を聞き、前向きに自分の課題を改めようという気持ちになっている主人公の心情の高まりをおさえる。
	・感じたことを書く。	感じたことを道徳ノートに書きましょう。	